

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 4 月 16 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530340

研究課題名(和文) 邦銀のアジア進出と国際競争力

研究課題名(英文) Overseas expansion of Japanese banks and international competitiveness

研究代表者

山口 昌樹 (Yamaguchi, Masaki)

山形大学・人文学部・准教授

研究者番号：10375313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：邦銀の競争力を、中国市場における経営効率の比較、シンジケートローン市場における貸出行動の特徴、インドネシアにおけるプロジェクトファイナンス市場でのネットワークから分析することができた。経営効率の観点から邦銀の効率性はHSBCやStandard Chartered Bankといった上位行よりも高かったものの、日系企業に特化した業務展開では業容拡大に限界がある。シ・ローン市場での邦銀の特徴としては、日系企業・外資系企業が主な貸出先であり、短期資金の供給を選好していることであった。インフラ金融における邦銀の特徴は、外国銀行とシンジケートを組成していること、外貨建て貸出を選好していることであった。

研究成果の概要(英文)：We could investigated the international competitiveness of Japanese megabanks from three points of views: a comparative study of bank efficiency in China, characteristics of lending behavior in Chinese syndicated loan market, and bank networks in Indonesian project finance market. First, efficiency studies presented that megabanks demonstrate higher efficiency than top foreign banks such as HSBC and Standard Chartered Bank. However, magabank business focus Japanese companies, and this strategy limits further business expansion of megabanks. Second, megabanks have a prominent characteristics that they prefer loans to Japanese and foreign companies, and loans with shorter maturities. Third, as for infrastructure financing, megabanks cooperate with foreign banks in bank syndication, and they prefer foreign currency loans.

研究分野：国際金融論

キーワード：邦銀 国際競争力 海外進出

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 2000年代後半から外国銀行が出資・買収、現地法人の設立といった形態でアジア地域に積極的に進出し、ホスト国の銀行部門でのシェアを急速に高めている。資産ベースで見ると、例えば、タイで50%、インドネシアで40%を超えるシェアを外資系銀行が占める現状である。進出の中核を形成しているのは欧米系銀行ばかりでなくシンガポールを中心とするアジア系銀行である。その一方で、本邦のいわゆるメガバンクは公的資金の注入に伴う経営改善計画で1990年代末から海外事業の縮小を余儀なくされた。2006年に公的資金は完済されメガバンクは海外展開を再開させたもののアジア地域での存在感は著しく低下したままである。メガバンクがアジア地域で株式の過半数を取得した案件はインドネシアの地場銀行に対する1件のみという状況である。こうした動向を見てメガバンクは主戦場であるアジアで出遅れた、あるいは、競争上の優位性を失ったという評価が一般的である。

(2) 応募者の研究成果を含む先行研究はホスト国への影響という視点から外国銀行の進出を分析してきた。一方、本研究は日本の成長戦略に軸足を移す必要性を感じて着想した。人口減少を背景とする内需の構造的な低迷や円高による企業の海外進出から資金需要の減少のために銀行業の将来展望は厳しい。活路として旺盛な資金需要が見込まれるアジアへの進出が製造業ばかりでなく銀行業についても語られることが多い。しかし、アジア諸国にはすでに多くの外国銀行が進出しており邦銀は後発参入者として競争することを余儀なくされている。アジア経済の成長の果実を邦銀が海外進出によって獲得することはできるのであろうか。本研究は邦銀、ひいては日本の成長戦略を実態把握に基づいたより現実的なものとするために必要な基礎研究として企図したものである。

## 2. 研究の目的

(1) シ・ローン市場を取り上げて邦銀の競争力を検証する。シ・ローン市場は外国銀行と邦銀との競争構造を客観的に観察できる特徴がある。邦銀がアレンジャーとして存在感を発揮しているかを明らかにするため、個別案件のデータから借手の属性(上場、格付けの有無、業種)、借入条件(スプレッド、期間、担保の有無、発行通貨)、資金用途やシンジケート規模といった項目で平均や比率の差を統計的に検定する。さらに項目を包括的に勘案した上でも違いが検出できるかについて回帰分析をする。

(2) 経営効率の観点からアジア市場での邦銀の競争力を測定する。効率比較の対象として地場銀行と外国銀行を取り上げて邦銀の競争上の位置づけを明らかにする。効率の測

定には一般的な財務比率だけではなく、産業組織論的な銀行研究で主流となっているデータ包絡分析を用いる。とりわけ、システム間の効率性比較という手法によって異なる業態に属する銀行の効率性を計測する。また、競争力の違いが観察された場合、その原因を特定するため規模の経済性の測定や技術特性を考慮した費用関数の推計を実施することを計画している。

## 3. 研究の方法

(1) シ・ローン市場での貸出行動を分析することで邦銀の競争力を明らかにする。この目的のためデータを金融情報会社から購入してデータセットを構築する。まず貸出案件の中で重要な変数について統計的な比較分析を実施する。次に複数の行動方程式を推計することで邦銀と外国銀行との貸出行動の違いを検出する。なお、実態把握に基づいた仮説設定のために事前に香港で金融機関へのヒアリングを実施する。

(2) 経営効率の測定によって邦銀と外国銀行との競争力を比較する。比較手法としてはまず財務比率を用いた統計的検定を実施する。次に生産フロンティアからの乖離によって費用効率を計測するデータ包絡分析によって個別銀行の効率性を算出することで競争力を明らかにする。さらに、さらに競争力の違いを説明をする要因の分析のために費用関数の推定を実施する。

## 4. 研究成果

(1) 中国における邦銀の競争力を分析した。分析は財務指標の比較といった直感的な手法ではなく、2010年の財務データを用いて効率性を測定するという銀行研究において標準的な手法を採用した。効率分析の準備作業として邦銀と他の外国銀行との戦略の違いをまず確認した。邦銀の競合相手と考えられる銀行は欧米系銀行、アジア系銀行ともに現地市場を開拓する戦略を採用している。個人顧客や中小企業を取り込むための金融商品・サービスを投入し、そのための体制を構築している。邦銀はキャッシュマネジメントや高度な金融商品の提供など新たなサービスに次々と取り組んでいるがそのターゲットはほぼ日系企業であり他の外国銀行の戦略との差異は明らかであった。効率性を計測することで外国銀行の競争力を比較した結果では邦銀の効率性はHSBCやStandard Chartered Bankといった資産規模でみた上位行よりも高かった。しかし、この結果だけを見て邦銀が中国市場で競争優位にあると解釈するのは慎重さを欠いていると思われる。その理由としては上位行によるリテール拠点の急速な開設が収益に本格的に貢献するにはもう少し時間がかかると考えられることが1つである。また、同業者間での邦銀の競争力に対する評価が極めて低いことや日

系企業に特化した業務展開では業容拡大に限界があることから邦銀の中国市場での展開を楽観視すべきではない。

(2) メガバンクの中国市場での成否を占う上での論点の1つはどういった貸出行動を取っているかであるためシ・ローン市場を対象にして分析を試みた。リーマンショック以降に約定した案件を邦銀参加案件と邦銀不参加に分類することで比較分析と回帰分析を行って邦銀の貸出行動の特徴を明らかにした。邦銀参加案件の最大の特徴は借り手が日系企業と外資系企業であるということである。債権保全の観点から案件参加を助長すると一般に想定できる国有企業や地方政府のプロジェクト、親会社が上場企業である借り手を邦銀はほとんど取引相手としていなかった。また、邦銀参加案件の資金使途は主に運転資金や借り換え資金であり、融資期間の比較からも邦銀が短期資金の供給を選好していることがうかがえた。こうした邦銀の貸出行動は多国籍銀行研究における追従仮説から説明できるものであり、信用情報の蓄積を背景とした情報生産の限界費用が低いと考えられることや、国内における長期的関係の強化、国内取引の深耕に中国での取引が資することから、邦銀の貸出行動は合理性を有すると評価できよう。

(3) 分析課題は、邦銀がインドネシアのプロジェクトファイナンス市場でどのような位置を占めるかをシンジケート組成の観点から明らかにすることであった。この課題に答えるために分析手法としてネットワーク分析を採用し、ソシオグラムによるネットワーク構造の図示を試みた。分析の結果、シンジケートの組成が邦銀を中心とする外国銀行のグループと国有銀行を中心とする現地銀行のグループとに分断されていることが観察できた。一般的な想定とは異なり、高度な金融スキルが必要だと考えられているプロジェクトファイナンスに現地銀行が積極的に参加している実情が明らかになった。また、グループ間の差異を案件の属性から確認したところ建値通貨に違いがあることが分かった。

(4) 地方銀行の外貨建て貸出への取り組み状況についてその構図を可視化して示すことを課題とした。外貨建て貸出のデータが有価証券報告書で公表されている地方銀行を対象として取り組み状況を俯瞰し、統計的手法を駆使して取り組み状況についてパターンを析出し、各銀行を分類、そして分類されたクラスターの特徴をレーダーチャートで示すことで外貨建て貸出を巡る構図を浮き彫りにした。さらに、外貨建て貸出を増加させている銀行に対しては電話インタビューを実施して最大の増加要因を探った。非階層的クラスター分析である X-means 法を用い

て分類を行った結果、最適なクラスター数は4つとなり、各クラスターの特徴をレーダーチャートで示すことで外貨建て貸出の構図が浮かび上がってきた。また、電話インタビューの結果から、増加への寄与が最も大きかった要因としてシ・ローンへの参加と回答した銀行が一番多いことが分かった。もちろん取引先企業の外貨需要への対応も増加要因として無視できないものであるが、現在、シ・ローン組成を積極的に進めるメガバンクに牽引されて多くの地方銀行が外貨建て貸出を伸ばしているという傾向を確認できた。

(5) 地銀の第一次国際化と第二次国際化とについて参加案件を比較し、国際シ・ローン市場における地銀の貸出構造の特徴を探った。分析の結果、地銀の国際シ・ローンへの参加状況と参加案件にいくつかの違いを観察した。まず、第一次国際化における地銀の活動は第二次国際化を凌駕していた。第一次国際化は地銀の幅広い参加という特徴を持つ。次に、借り手の国籍に大きな変化が確認できた。アジア諸国の借り手への融資は第二次国際化では半減し、その存在感を低下させた。建値通貨については、第二次国際化において円建て貸出が大幅に増加したことを観察した。参加行数で捕捉するシンジケート規模は第一次国際化の方がかなり大きかった。第二の課題は、地銀が参加を選好する国際シ・ローンはどのようなタイプのものかを調査する。この課題に答えるためプロビット分析を採用し、限界効果を算出した。推計結果は地銀の貸出行動は2つの期間で似通っていることを示すものであった。地銀の参加を促進する案件の特徴は小さな融資額、大きなシンジケート規模、資金使途が通常業務であることが観察された。こうした選好は地方銀行のリスク負担能力や審査能力が限定的であることを反映していると推察される。一方、貸出行動に2つの差異が確認できた。1つには、第二次国際化において円の存在感が増大したことである。もう1つは、地銀の参加に対する格付けの影響が大きくなったことであり、このこと背景には市場環境や借り手の行動の変化があると推測できる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4件)

山口昌樹「マレーシアの債券市場と外国銀行 - 競争構造の実証分析」『証券経済研究』、査読有り、第83号、pp.91-107、日本証券経済研究所、2013年9月

山口昌樹「中国における邦銀の貸出行動 - シンジケートローンの実証分析 - 」『中国経済研究』、査読有り、第10巻第2号、pp.44-60 中国経済学会、2013年9月

山口昌樹「インドネシアにおけるイン

フラ金融と邦銀 - ネットワーク分析による観察 - 』『東北経済学会誌』、査読無し、東北経済学会、第 66 巻、pp.38-47, 2014 年 2 月

Yamaguchi, M., Participation of Japanese regional banks in international syndicated loans: Lending behavior and explanatory factors, Review of Integrative Business & Economics Research, 査読有り, Vol 4(2), pp.220-236, 2015

〔学会発表〕(計 7 件)

山口昌樹「中国における邦銀の競争力」日本金融学会 2012 年春季大会、立正大学大崎キャンパス、2012 年 5 月 19-20 日

山口昌樹「アジアにおける外国銀行の展開 - タイと中国を中心に - 」日本金融学会 2012 年秋季大会、北九州市立大学、2012 年 9 月 15-16 日

山口昌樹「インドネシアにおけるインフラ金融と邦銀 - ネットワーク分析による観察 - 」日本金融学会 2013 年秋期大会、名古屋大学、2013 年 9 月 21-22 日

山口昌樹「地方銀行の外貨建て貸出 - 構図と変動要因」日本金融学会 2014 年春季大会、慶應義塾大学、2014 年 5 月 24-25 日

Yamaguchi, M., "Infrastructure Financing in Indonesia and the Role of Japanese Banks: Observations through a Network Analysis" The 14th Convention of East Asian Economic Association, Chulalongkorn University, Bangkok, 1-2 November 2014

Yamaguchi, M., "Participation of Japanese regional Banks in International Syndicated Loans: Lending behavior and explanatory factors" Annual Tokyo Business Research Conference, Waseda University, 15-16 December, 2014

Yamaguchi, M., "Participation of Japanese regional Banks in International Syndicated Loans: Lending behavior and explanatory factors" SIBR-UniKL 2015 Conference (Kuala Lumpur) on Interdisciplinary Business and Economics Research, 16th-17th February 2015, Kuala Lumpur

〔図書〕(計 1 件)

山口昌樹『邦銀のアジア進出と国際競争力』山形大学人文学部叢書 1, 2012 年 11 月

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口昌樹 (YAMAGUCHI, Masaki)

山形大学・人文学部・准教授

研究者番号：10375313

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：